

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和3年6月7日 ~ 令和4年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母語を日本語としない生徒への日本語指導を踏まえた教科指導法と授業の展開方法全般について</li> </ul> <p>IV 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導</li> <li>・夜間学級専門スタッフを活用した教育活動の在り方について</li> <li>・養護教諭の配置、保健室の設置について</li> </ul>
調査研究のねらい	<p>多国籍生徒が在籍し、日本語の習熟度や既習状況が異なる中で、教科指導の在り方は、依然として大きな課題である。夜間学級の教育活動をさらに充実させ、多様な生徒の受け入れの拡大が図れるよう生徒一人一人の個に応じた効果的な指導方法の調査研究をねらいとする。</p> <p>あわせて、生徒の実態に合わせた指導をサポートする夜間学級専門スタッフを活用した教育活動及び効果的な活用について、昨年度に引き続き研究する。</p>
調査研究の成果	<p>I について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の個に応じた効果的な指導方法や教材づくりを、行った。</li> </ul> <p>※ 生徒たちの「確かな学力」を育成するためには、分かりやすい授業をすることが必要である。その指導方法の一つとして、個に応じた教材を準備し、授業を展開することが有効であると考え。特に外国籍の生徒が多く在籍する本学級の現状では、学習への興味・関心を高めたり、学習内容を理解したりする上で個に応じた教材づくりや授業展開の工夫が必要である。</p> <p>生徒たちの主体的・協働的な学びを実現するために、次の2点について、調査研究を行ってきた。</p> <p>①一人一人の生徒たちの能力（日本語習得の段階等）や特性に応じた「個別学習」の充実</p> <p>②多国籍の生徒たちが、自分の持っている知識を教え合い、学び合える力、生活力を高められる学習（「協働学習」）</p> <p>（具体的活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の生徒用の図書資料（委託費で購入）を活用し、日本で生活する、学校で学ぶ上での日本語について個別に学習した。</li> <li>・GIGAスクール構想で貸与されたタブレットや大型提示装置を使用し、個々の考えを発表したり、プレゼンしたりするなど興味・関心を高めたり、学習内容の理解を深めたりした。</li> </ul>

#### IVについて

##### ○日本語指導の指導内容と方法

- ・日本語指導は、1学期に基礎的な日本語を学習するグループを設置して学習し、2学期からは、主に国語や始業前の学習相談時間に行い、個々の生徒の様子に応じて教材を提示して行った。

##### ○国語以外の各教科指導における日本語の工夫

- ・国語以外の各教科指導において、教科の特色を生かして効果的な日本語が習得できるように工夫を行った。

##### ○夜間学級専門スタッフによる生徒の実態に合う教育活動・支援

- ・夜間学級専門スタッフによる生徒の実態に合う教育活動・支援については、教育課程を推進していく上で、教科指導と日本語指導が重要となる。そのため、日本語習得レベルに応じた学習支援を進められるようにサポートをした。主に、まだ日本語の読み書きができない生徒に対して専門性（日本語指導や英語）を生かし支援に入った。

##### ○養護教諭配置による役割及び保健室設置による活用方法

今年度、夜間学級に養護教諭が配置され2年目となった。保健指導、健康診断（歯科検診、内科検診）など、専門的立場から指導や実施をした。また、保健室も令和3年2月に設置され、けがの応急処置を行った。

また、新型コロナウイルス禍の中、感染症の心配が尽きないなか、検温、健康観察、手洗い、マスク着用、消毒などコロナ対策を中心に職務に当たった。ICT機器を使い保健指導も定期的に行った。今年度は、女子の生徒数が多く、養護教諭への相談など保健室利用が増えた。

#### (1) 教員研修

##### ・7月

日本語教師の資格を持つ講師を迎えて、日本語指導の進め方についての研修会を行った。テキストをベースに、絵カードや動画を活用した、より実践的で理解しやすい指導方法について理解を深めることができた。

##### ・12月

行政書士の方を講師に迎え、「来日する外国籍の生徒と現状」について全国、県、市川市の状況を踏まえながら、現在の外国人の在留状況・在留管理制度・在留資格の基礎事項、在留外国人の義務等とともに、在留外国人が直面する課題や学習・生活指導、また在籍する生徒に関する在留管理制度における注意点などについての理解を深めた。また、本校に在籍が多いアフガニスタンの状況についての情報も確認できた。

#### (2) 授業実践

本校夜間学級は、日本語学級は設置していない。日本語を

覚えるまでは、国語の時間と1学期間は、日本語指導の時間を設けて社会、理科の時間に行っている。2学期からは、各教科指導の中で教科の特色を生かして効果的に日本語の学習も織り交ぜながら授業展開をし、研究を行った。

- ① 各教科において自作の教材を作成するにあたり、漢字にルビを振り日本語を分かりやすくする。
- ② 視覚で対応できる授業（理科の実験、パワーポイント、日本語教材など）から理解を深める実践を展開した。
  - ▶ パワーポイントを活用した授業（理科、社会等）。
  - ▶ 理科の授業では、「大気圧」をテーマに実験を展開・研究授業を行った。実験を進めていく中で、個々に考え、実験を通して深く理解できるようにワークシートに英語と中国語の表記を載せ、見通しや具体的理解ができるようにした。その中で、日本語の意味の理解の一助となった。
  - ▶ 社会では、世界の気候の説明、凡例にルビを振ったり、単語に英語表記をしたりした。また、方角を覚えるときに平仮名表記や漢字表記を読めたり、書けたりできるようにワークシートで練習をした。

## 〈 成果と課題 〉

### （1）成果

アンケート調査からは、生徒は授業や学校生活に対して充実し、満足している様子が読み取れる。また、わかりやすい授業となるように授業研究・工夫はしていることが結果につながっていると考えられる。

外国籍の多い本校において、ルビ振りだけではなく、タブレットなどのICT機器の活用はとても効果的に学習を進められた。ウェブの翻訳機能のツールを活用し、日本語の意味を調べながら自分の意見をまとめたり、パワーポイントを活用したりしながら自分の意見や人の意見を共有し、考えていく活動ができた。また、ケースに応じた実践的な言葉などが学べる書籍などを取り入れたことで、生徒の関心があがり、書籍を手にする機会が増えた。

本務教員6名、講師7名（夜間学級専門スタッフ含む）、養護教諭1名。ティームティーチング体制を組み、習熟度に応じたグループ編成の授業を行い、生徒の実態に合った特別の教育課程を実施してきた。日本に来て間もない生徒が多いことから日本語の指導が基礎となるので、よりきめ細やかな支援ができるので夜間学級専門スタッフの配置は効果的であった。

養護教諭の配置や保健室の活用については、体調不良の生徒に対し、すぐに対応でき、生徒も安心して学校生活を送れ

ている状況がある。また、生徒が興味を引くような廊下の掲示物や保健だより、また、時間を設定した保健指導などを通して、健康や衛生などについて指導できた。今後、さらに、夜間学級保健室の運営を整えていけるとよいと考える。

#### (2) 課題

- ・ 様々な国籍の生徒が在籍し、母国での教育環境や教育内容が異なっていることもあり、日本語の習得状況は徐々に差が生じてくる。そうした実態にあって、日本語指導をしながら教科指導も行っていくことが課題に挙げられる。一方、日本の中学を卒業した学び直しの生徒もおり、どのような学習にどう取り組ませるかも課題となっている。
- ・ 継続した課題ではあるが、よりわかりやすい授業を展開するため、視覚に訴える教材の開発やICT機器の効果的な活用は必須である。
- ・ 今後、さらに多様化した生徒の入学が考えられることから、ニーズに合わせた夜間学級職員の指導力、支援力、専門性を向上させることが課題である。
- ・ 夜間学級保健室の活用や保健指導についての更なる整理が必要である。